

# 第1学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時

- 1 主題名 わがままな行い
- 2 ねらい これまでの生活体験と重ね合わせながら、周囲の人と自分のこと考え、わがままをしないで生活しようとする態度を養う。

教材名 かぼちゃのつる(出典:「あたらしいどうとく 1」東京書籍)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

小学校第1学年及び2学年の内容項目は、A「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」である。

低学年の段階では、周りを気かけずに自分の思うままに行動したことが、周りの人を困らせる場合もあることに気付かないことが多い。そこで、本主題をもとにわがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ育てていくことが大事である。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、穏和で明るい児童が多く、素直な態度で学校生活を送っている。これまでに、道徳科「べんきょうがはじまりますよ」では、時間を守ることの良さに気づき、きちんとした生活をしようとする学習を行った。生活科では、学校探検のなかで、グループの仲間のことや各学年の授業の時間を考えながら、自分勝手な行動は控えて楽しく活動するように指導をした。しかし、休み時間や清掃活動などの場面では、忠告されても自分のことだけを考えて行動した結果、学級全体または友達に迷惑をかけることもまだある。また、両親が共に働いている場合が多く、親の年齢層も若くなっている。そのため、しつけについては放任的であったり、発達の段階にあわなかったりして、自己統制のための指導が十分でない。そこで自分勝手なわがままな行動は迷惑をかけることに気付かせ、人の忠告を聞き入れることの意義や大切さを自覚し、わがままや自分勝手な行動を慎もうとする態度を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、みんなの忠告に耳を貸さず、好き放題つるを伸ばしたかぼちゃが、最後につるをトラックに切られ、痛い思いをするという内容である。

本時の授業では、わがままなかぼちゃの心情に共感させ、これまでの生活体験と重ね合わせながら、ねらいにかかわる道徳的価値について考えていけるよう、次の手立てを講じていく。

- ・導入の段階では、1学期に心を込めて育てた朝顔のつるの写真を見せ、ぐんぐんと伸びていったことのうれしさを想起させ、どんどん伸びようとしたかぼちゃに共感しやすくする。
- ・展開の前段で、児童が話の内容に興味をもち、自分のこととして考えが深まるように紙芝居を活用して教材を提示する。また、かぼちゃのわがままな気持ちに共感させるため、動作化を取り入れる。
- ・展開の後段では、これまでの自分を振り返り、わがままをしてしまった経験やそのときの気持ちを語らせることで、周りの人も気持ちよく生活できるということに気付かせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

## 4 研究協議会における視点の本授業での工夫

### (1) 「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための工夫

授業や教材に児童がより興味を示すよう、導入に実体験を入れることで意識付けをしている。

(2) 学習活動に着目した評価の工夫

道徳的な発言、自己中心的な発言、他の人に流された発言の3つの視点とワークシートを重ね合わせ、評価をする。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点◎評価の視点
導入 5分	1 朝顔のつるが伸びた時の気持ちを想起させる。 ○あさがおのつるがぐんぐん伸びていったとき、どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしかった。</li> <li>・もっと伸びてほしいと思った</li> <li>・ほかの人のつると絡まって面白かった。</li> <li>・すごいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの活動や体験を想起させ、かぼちゃの気持ちに近づく下地を作る。</li> <li>・成長した朝顔の写真を掲示する。</li> </ul>
展開 37分	2 教材を読み、話し合う。  (1) つるをぐんぐん伸ばしているとき、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。  (2) はち、ちょう、すいか、いぬに注意されたとき、どう思ったでしょう。  (3) トラックにつるを切られたとき、かぼちゃは自分でどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいなあ。</li> <li>・どんどん大きくなるぞ。</li> <li>・もっと遠くまで伸びるぞ。</li> <li>・気持ちがいいなあ。</li> <li>・ちょっとくらいいいだろう。</li> <li>・そっちに行きたいの。</li> <li>・ぼくの畑はせまいんだもの。</li> <li>・けちなこと言うなよ。</li> <li>・うるさいなあ。</li> <li>・またいで行ってよ。</li> <li>・ほっておいてよ。</li> <li>・ぼくの勝手だろう。</li> <li>・痛いよう。ひどいじゃないか。</li> <li>・車のせいだ。</li> <li>・こんなことなら、みんなの言うことを聞いておけばよかった。</li> <li>・言うこと聞かないぼくが悪かったよ。ごめんね。</li> <li>・これからはわがまましないよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の行動により共感させるために紙芝居を使って提示する。</li> <li>・黒板に掲示したかぼちゃのつるを実際に伸ばしてみ、かぼちゃが気持ちよくつるを伸ばしている様子を感じ取らせる。</li> <li>・動作化を取り入れ、かぼちゃの気持ちをとらえやすくする。</li> </ul> <p>◎誰かのせいするのではなく、かぼちゃ自身の行動を省みて自分の考えを発表している。(発言)</p>

	<p>3 自分勝手にしないで、気持ちよく過ごすには、どうしたらよいか考える。</p> <p>(1) わがままをして人を困らせてしまったことはありますか。</p> <p>(2) 自分勝手やわがままをしないで、気持ちよく生活するにはどうしたらよいですか。</p> <p>○今日の授業を振り返って、感想を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食のおかわりの時に、順番を抜かしてしまった。</li> <li>・ピオトープに行って、落ちるよと言われたのに遊んでしまって、池に落ちてしまった。</li> <li>・おしゃべりをしていて、友達に注意されたらすぐにやめる。</li> <li>・まだ遊びたいけど、注意されたらやめる。</li> <li>・テレビを見ているときに家の人に注意されたらそこで終わりにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの生活を振り返り、わがままをおさえると自分も周りの人も気持ちよく生活できることに気付かせる。</li> <li>◎様々な場面の中で、気持ちよく生活するために大切なことに気づく。</li> <li>(発表・発言・ワークシート)</li> </ul>
終末3分	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の小学校時代の話をし、わがままをがまんすることの大切さを十分感じさせたい。</li> </ul>

## 6 他の教育活動との関連

時	他の教育活動との関わり	・主な活動内容
事前	道徳科「べんきょうがはじまりますよ」 <b>【A 節度・節制】</b> 生活科 学校探検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守ることの良さに気づき、きちんとした生活をしようとする態度を養う。</li> <li>・わがままを言わずに班で協力して探検をする。</li> </ul>
本時	道徳「かぼちやのつる」A <b>【節度・節制】</b>	
事後	体育 ボールけりゲーム 生活科 昔遊びをしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わがままや自分勝手にせず、ルールを守って仲良く運動する。</li> <li>・自分だけで楽しんだり、欲張ったりせずに保育所の子に昔遊びを教える。</li> </ul>

## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

自分勝手やわがままをせず、気持ちよく生活するにはどうすればよいのか様々な意見や体験から考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

わがままをしないことが、自分や他の人の快適な生活を守ることにつながることを自分との関わりで考えている。

8 板書計画

みんながきもちよくせいりつするには

かぼちゃのつる

9月27日(キト)

たのしいな。  
大きくなるぞ。  
きもちがいいな。  
もとのびるぞ。

うるさいな。  
いいじゃないか。  
ほとしてくれよ。  
ほくのかえでなう。  
もとのびたんだ。  
すまなうついでさせて

うれしい。  
もとのびて  
からまてしました。  
たいへん。

みんなのいっこと  
まけはよかた。  
ぼくがけなかつた。  
もつわがまま  
いわない。

いたよう  
いたよう  
ああんああん